

【ダボス共同】国際非政府組織（NGO）オックスファムは16日、世界で最も裕福な8人と、世界人口のうち経済的に恵まれていない半分に当たる36億7500万人の資産額がほぼ同じだとする報告書を発表した。貧富の格差拡大は社会の分断を招き、貧困撲

滅の取り組みを後退させると警告。各国政府や大企業に「人道的な経済」の確立を求めた。報告書は、8人の資産が計4260億ドル（約48兆7千億円）に上り、世界人口73億5

資産額

超富裕

8人

世界の低位

36億人

ほぼ同じ

NGOが報告

千万人の半分の合計額に相当していると指摘。課税制度の是正が不可欠だと訴えた。2011年にかけて、下位10%の収入は年平均3%も増えていないのに対し、上位1%は182倍になったとしている。オックスファムは貧富拡大の要因として、大企業などが政府の規制や国際政策に影響

力を及ぼす「縁故資本主義」を挙げた。富める者の資産の3分の1は相続によるもので、43%は縁故主義に関係していると分析した。発展途上国は脱税で年1千億ドルを失っ

「できるかを考えるべきだ」と強調した。スイス東部ダボスで17日に開幕する世界経済フォーラム（WEF）の年次総会（ダボス会議）ではこの報告書を基に議論が行われる。